

農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定に基づき、公表します。

幸手市長 木村 純夫

市町村名 (市町村コード)	幸手市 (11240)	
地域名 (地域内農業集落名)	権現堂地区 (権現堂第一、権現堂第二、新田下谷、上吉羽一ツ谷、小七、くつわ瀬、神明内第一・第二 明奨精和権現前、共興本田、新田下)	
協議の結果を取りまとめた年月日	令和7年12月10日 (第1回)	

注1:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。  
 注2:「協議の結果を取りまとめた年月日」欄には、取りまとめが行われた協議の回数を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域農業の現状及び課題

本地域は、市の中央から北部に位置し、標準区画が30a程度の水田が整備されており、水稻を中心に作付けされている。  
 令和6・7年度に一部地域で機構集積協力金推進事業を実施したことにより農地中間管理事業の活用率が増加傾向で現在の耕作者が耕作を継続できなくなった際に担い手へ耕作を引き継ぐ体制が整備されつつあるが畑作農家の減少により、狭小圃場の利用にあっては課題が残る。

(2) 地域における農業の将来の在り方

補助事業等を活用した圃場の大区画化など耕作がしやすい環境整備を行い、水田を中心とした担い手への農地の集約を目指す。  
 また、水稻以外の農業者への支援や新規参入の支援を行い地域の農地全体をカバーできる体制を整備していく。

2 農業上の利用が行われる農用地等の区域

(1) 地域の概要

区域内の農用地等面積	265.93 ha
うち農業上の利用が行われる農用地等の区域の農用地等面積	201.49 ha
(うち保全・管理等が行われる区域の農用地等面積)【任意記載事項】	0 ha

(2) 農業上の利用が行われる農用地等の区域の考え方(範囲は、別添地図のとおり)

農業振興地域内の農用地を農業上の利用が行われる区域とする。

注: 区域内の農用地等面積は、農業委員会の農地台帳等の面積に基づき記載してください。

3 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために必要な事項

(1)農用地の集積、集約化の方針
規模拡大を目指す農業者に、農地中間管理事業の活用による農地の集積・集約化を図ることを基本としつつ、自作を含め、多様な担い手による農用地の有効利用を目指す。
(2)農地中間管理機構の活用方針
機構集積協力金推進事業等の活用により、農地中間管理事業の利用率及び認知率が増加傾向にあるため、継続した周知や未活用者を対象に周知を行っていく。
(3)基盤整備事業への取組方針
地域内の水田のほとんどが標準区画30a程度に整備されていることから、更なる圃場の大区画化を目指す。
(4)多様な経営体の確保・育成の取組方針
地域内外から、多様な経営体を募り、意向を踏まえながら担い手として育成していくため、関係機関と連携し相談から定着まで切れ目なく取り組んでいく。
(5)農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の活用方針
幸手市農業技術銀行運営協議会にて定めた農作業委託にかかる基準単価を参考に農協や地域内の農作業受託希望者と相談し作業を依頼することで、遊休農地の発生を防止を図る。

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組方針を記載してください)

<input type="checkbox"/>	①鳥獣被害防止対策	<input checked="" type="checkbox"/>	②有機・減農薬・減肥料	<input type="checkbox"/>	③スマート農業	<input type="checkbox"/>	④畑地化・輸出等	<input type="checkbox"/>	⑤果樹等
<input type="checkbox"/>	⑥燃料・資源作物等	<input checked="" type="checkbox"/>	⑦保全・管理等	<input type="checkbox"/>	⑧農業用施設	<input type="checkbox"/>	⑨耕畜連携等	<input type="checkbox"/>	⑩その他

【選択した上記の取組方針】

②有機農業や化学肥料・化学合成農薬の使用を低減した農作物の栽培の取組拡大を推進していく。  
 ⑦多面的機能支払交付金活動組織(上吉羽排水路管理組合、信木排水路流域保全組合、木立保全組合)を中心とした、地域で農地や農業用排水路の保全・管理等を推進していく。